

佐賀県玄海町イメージ小説コンテスト結果

■応募総数 : 231作品 (一次選考通過作品：15作品)

■募集要項 : 玄海町の名所や玄海町にまつわる伝説・昔話をテーマにしたオリジナル小説を募集します。ジャンル、細かい設定は問いません。
優秀作品は短編のコミカライズ予定のため、完結作品を募集します。
(文字数：3,000字～20,000字以内)

■選考 : ①一次選考
(本事業受託事業者)
②審査協力
(講談社『小説現代』編集長 河北壮平氏)
③最終選考
(玄海町受賞作品審査委員会)

■受賞作品数 : 6作品

大	賞	1作品
準大	賞	1作品
佳	作	4作品

佐賀県玄海町イメージ小説コンテスト【大 賞】



作品タイトル

しゅんしゅうしゅうし

春愁秋思の恋の果て。

著者名(ペンネーム)

ゆづき みさ

雪月海桜

玄海町受賞作品審査委員会コメント

前半から感じる違和感を見事に回収している。

とても切なく、純粹さにあふれた恋愛作品にまとめてあり、作品の中で『恋人の聖地』をうまく絡めて構成している。

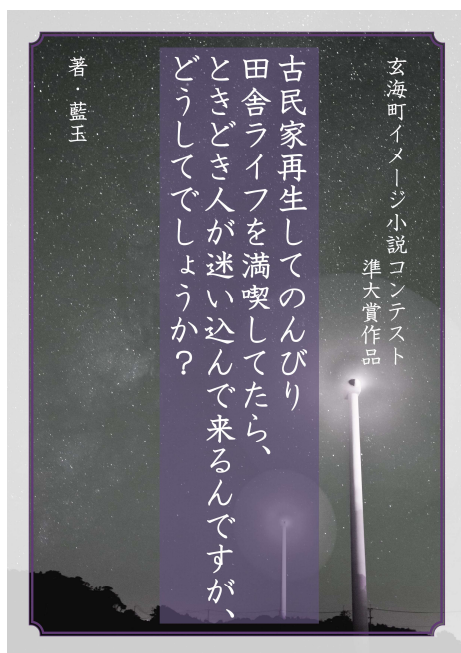
あらすじ

主人公の”槻秋臣”は四季の名を冠する、十数年来の仲間と彼女である春香を含め4人で旅行で玄海町に来た。

みなそれぞれの想いを抱え彼等4人が訪れたのは、『玄海町』海へと至る階段の如く傾斜に広がる棚田を臨む、44番目の恋人の聖地。

浮き足立ちながら初めての町を巡る中で、ふとした瞬間に『槻秋臣』を襲う数々の違和感。古びたしおり、覚えのない情報、薄れる意識.....欠けた記憶の果てに、彼が見つけた真実と愛の物語。

佐賀県玄海町イメージ小説コンテスト【準大賞】



作品タイトル

古民家再生してのんびり田舎ライフを満喫してたら、
ときどき人が迷い込んで来るんですが、
どうしてでしょうか？

著者名(ペンネーム)

あいだま

藍玉

玄海町受賞作品審査委員会コメント

田舎暮らしの美しさに加えて、こんな場所なら住んでみたいと感ずることができる作品。
話の仕掛けが面白く、最後にはきちんとしたオチがある。

あらすじ

首都圏に住む、異世界小説が大好きなサラリーマン中村旭が、ひょんなことから父親が購入した佐賀県玄海町の古民家に住むことになる。玄海町の住人はとても優しいし、景色もよくて食べ物もおいしい。

時々夕方になると迷い込んで来る地元の人がある。地元民が迷うことなんてあるのだろうか？そして、みな口をそろえて夜にならないと帰れない。たぬきがあーだこーだというのだ。そして、夜になると玄関には不思議なちょうちんが置かれていて……。一体なんでみんなこんな場所に迷い込んでくるのだろうか？

佐賀県玄海町イメージ小説コンテスト【佳作】



作品タイトル

少しずつ 世界がおかしくなっていく
あの子に告白したいだけなのに

著者名(ペンネーム)

あきさめ みくも
秋雨三雲

玄海町受賞作品審査委員会コメント

時空を移動（タイムリープ）する度に試行錯誤しながら玄海町の観光スポットを回るという視点が面白い。最後のオチも含めてファンタジー作品としてまとまっている。

あらすじ

玄海町に住む高校2年生の僕は、夏休みに片思い中の部活の後輩である成瀬さんをデートに誘う。行き先は恋人の聖地、浜野浦の棚田だ。デートの最中に不思議な狸を助けてトラックにはねられる僕。そこから少しずつ世界がおかしくなっていく.....。

目を覚ました僕は、時間がデートの前日に戻っていることに気づく。奇妙に思いながらも今度は淀姫神社に成瀬さんを誘うが、そこでもまたおかしい出来事に見舞われ、再びデートの前日に巻き戻される。

何度も時間をループしながら、玄海町のさまざまな観光スポットを巡る僕と成瀬さん。そしてなぜか行く先々に現れるクラスメイトの絹田。浜野浦の棚田、淀姫神社、藤ノ平ダム、仮屋湾岸.....それぞれの地域に伝わる民話にもとづいた出来事に巻き込まれる僕の恋の行方は？

佐賀県玄海町イメージ小説コンテスト【佳作】



作品タイトル

空に伸びる階段、丸くなる言葉。

著者名(ペンネーム)

ささき いぶん
佐々木異聞

玄海町受賞作品審査委員会コメント

文章が達者で、青春・恋愛掌編として読み応えのある内容になっている。

また、玄海町の民話の紹介もあり、楽しく読むことができる作品。

あらすじ

主人公、青木翔太は玄海町に住む学生で女性と話すのが少し苦手である。

GW明け玄海町に転校してきたばかりの同級生三島彩子に女性と話す練習台になってあげるからと玄海町を紹介して欲しいと依頼され町を案内する事になる。町を案内した最後にお礼も込めてと、彩子から告白をされる。翔太自身はかわいいと思っていた彩子からの突然の告白に困惑するも付き合う事になった。しかしその三日後、浜野浦の棚田展望台にデートに行った際に彩子から突如別れを切り出される。俺たち、付き合ってたまだ三日なんですけど！？

玄海町を舞台に語られる、少年と転校生の少女の物語。

佐賀県玄海町イメージ小説コンテスト【佳作】



作品タイトル

夕日と母の日ともじゃもじゃと

著者名(ペンネーム)

こぬかあめ

玄海町受賞作品審査委員会コメント

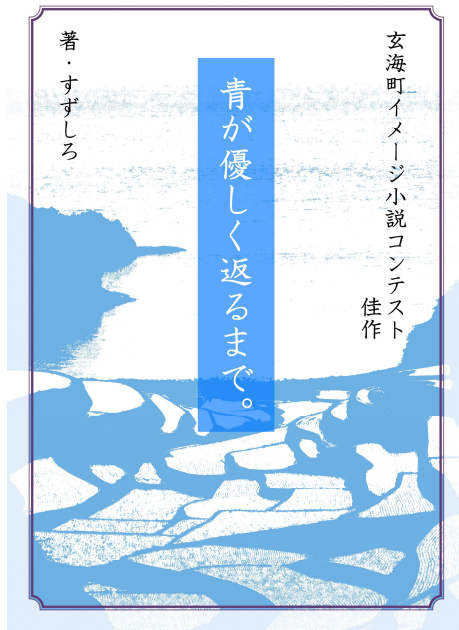
家族の暖かみというものを感じられる作品。
とても微笑ましくなるヒューマンドラマ作品の舞台に自然と棚田や佐賀牛という町の要素が含まれている。

あらすじ

夫の転勤で縁もゆかりもない佐賀に越してきた「私」は3歳と5歳の子供に加えて35歳の子供(夫)に手が掛かる事からいつもイライラしていた。引っ越し業者を探すのも「私」中途入園の幼稚園でママ友すら出来ない「私」。夫も私の気持なんかはわかっていないだろうと思いながら生活をしていて、とある日の日曜日、子供を味方につけた夫は趣味のカメラを持って玄海町にドライブに行くと言い出した。

大きな子供のわがままに付き合わせられると思ったドライブ先で待っていた「私」へのサプライズとは??

佐賀県玄海町イメージ小説コンテスト【佳作】



作品タイトル

青が優しく返るまで。

著者名(ペンネーム)

すずしろ

玄海町受賞作品審査委員会コメント

主人公の心の傷が次第に癒えていく物語。
優しい筆致で綴る小説であり、読んでいくうちに玄海町の風景が思い浮かぶような作品となっている。

あらすじ

主人公である高校生の美青は両親を事故で亡くし、美青の今後について親戚のほとんどは厄介事に巻き込まれるのは面倒と思われる中、一人暮らしをしている祖母がいる玄海町にやってきた。

両親を亡くしてから、転校先の学校でも人と関わらず、授業が終わればすぐに帰宅する人と関わらない生活をしている中、祖母の家にときどきやってくる親戚の陽太と会うことで徐々に変わっていく美青の心情を描いた物語。